

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特許公報(B2)

(11) 特許番号

特許第6014146号
(P6014146)

(45) 発行日 平成28年10月25日(2016.10.25)

(24) 登録日 平成28年9月30日(2016.9.30)

(51) Int.Cl.
A43B 5/04

(2006.01)

F 1

A 4 3 B 5/04

C

A 4 3 B 5/04

B

A 4 3 B 5/04

D

請求項の数 16 (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2014-530232 (P2014-530232)
 (86) (22) 出願日 平成24年9月13日 (2012.9.13)
 (65) 公表番号 特表2014-526327 (P2014-526327A)
 (43) 公表日 平成26年10月6日 (2014.10.6)
 (86) 國際出願番号 PCT/EP2012/068015
 (87) 國際公開番号 WO2013/037924
 (87) 國際公開日 平成25年3月21日 (2013.3.21)
 審査請求日 平成27年3月6日 (2015.3.6)
 (31) 優先権主張番号 1523/11
 (32) 優先日 平成23年9月15日 (2011.9.15)
 (33) 優先権主張国 スイス (CH)

(73) 特許権者 514064866
 ダワー・スポーツ・カンパニー・ソシエテ
 ・アノニム
 スイス国、1700 フリブル、バサー
 ジュ・ドゥ・カーディナル、1、ケア・オ
 ブ アソシエーション・フライ・アップ
 (74) 代理人 100069556
 弁理士 江崎 光史
 (74) 代理人 100111486
 弁理士 鍛治澤 實
 (74) 代理人 100173521
 弁理士 篠原 淳司
 (74) 代理人 100153419
 弁理士 清田 栄章

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】スポーツブーツ

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

スポーツブーツであって、
 このスポーツブーツがインナーブーツ(3)と、
 外部シェル(1)であって、この外部シェルの寸法により、前記インナーブーツ(3)
 を外部シェル内に挿入できるかあるいは外部シェルから取出すことができる外部シェルを
 備えており、

前記外部シェルが前記インナーブーツを強化し、かつ前記外部シェルにより、インナーブーツをスポーツ用品の部品に取付けることができ、

前記外部シェルが靴底(10)と上部(11, 12)を備えており、

前記インナーブーツが足首に近い外側に突出している、旋回された前記上部の前方および後方部分(11, 12)を固定するための旋回軸(300)を備えており、

前記外部シェルが旋回軸を収容するためのハウジング(14)を備えているスポーツブーツにおいて、

前記ハウジング(14)の周囲の一部分が、上部の前方部分上で切れ込み(140)を備えており、ハウジングの周囲の他の部分が、上部の後方部分上で切れ込み(141)を備えており、

前記上部の後方部分(12)を旋回させることにより、インナーブーツを外部シェル内に挿入でき、かつ外部シェルから取出すことができ、

前記切れ込み(140, 141)がインナーブーツの旋回軸(300)を収容できるよ

10

20

うに配置されていることを特徴とするスポーツブーツ。

【請求項 2】

前記旋回軸（300）が前記切れ込みを収容するための環状の溝（301）を備えているを特徴とする請求項1記載のスポーツブーツ。

【請求項 3】

前記外部シェルが第一の連結部（110）を中心にして靴底（10）に対して旋回可能である上部の前方部分（11）、および／または第二の連結部（120）を中心にして前記靴底（10）に対して旋回可能である上部の後方部分（12）を備えていることを特徴とする請求項1記載のスポーツブーツ。

【請求項 4】

上部の前記前方部分（11）および／または上部の前記後方部分（12）を旋回させることにより、前記ハウジング（14）を開くかあるいは閉じることができることを特徴とする請求項3に記載のスポーツブーツ。

【請求項 5】

閉じられかつ一方を他方に対してぴんと張られた、上部の前記前方部分（11）と上部の前記後方部分（12）を保持するための締め金を備えていることを特徴とする請求項3に記載のスポーツブーツ。

【請求項 6】

スポーツブーツが、外部シェルの靴底に対して接続され、かつ後方上部（12）に締結された、アキレス腱の周囲の補強材（18）を含んでいることを特徴とする請求項1に記載のスポーツブーツ。

【請求項 7】

前記靴底（10）が、水を排出するための複数の孔（100）を備えていることを特徴とする請求項1に記載のスポーツブーツ。

【請求項 8】

前記靴底（10）が、リブと溝を備えており、外部シェル（1）内でインナーブーツ（3）を横方向に、かつ必要とされる高さに位置決めするために、インナーブーツ（3）が対応するリブと溝を備えた靴底を備えていることを特徴とする請求項1に記載のスポーツブーツ。

【請求項 9】

インナーブーツ（3）が一つあるいは幾つかの紐（36）を備えていることを特徴とする請求項1に記載のスポーツブーツ。

【請求項 10】

固定点へ紐留めを固定することにより紐をぴんと張ることができる紐留め（34）を備えていることを特徴とする請求項9に記載のスポーツブーツ。

【請求項 11】

靴底（10）と少なくとも一つの上部（11, 12）の旋回部分とを備えた外部シェルにおいて、

足首の外側に切れ込み（140, 141）を備え、これらの切れ込みがインナーブーツの旋回軸（300）を収容できるように配置されていることを特徴とする請求項1に記載のスポーツブーツのための外部シェル。

【請求項 12】

上部の前方部分（11）と上部の後方部分（12）を備え、前記前方部分が、上部の前方部分（11）上に一方の切れ込み（140）を備え、前記後方部分が、上部の後方部分（12）上に他方の切れ込み（141）を備えており、両方の切れ込みが、その中に旋回軸（300）を収容するための閉じたハウジング（14）を形成していることを特徴とする請求項1に記載のスポーツブーツ。

【請求項 13】

閉じられかつ一方を他方に対してぴんと張られた上部の前記前方部分（11）と上部の前記後方部分（12）を保持するための締め金を備えていることを特徴とする請求項1

10

20

30

40

50

に記載のスポーツブーツ。

【請求項 1 4】

前記靴底の内側にリブが付されていることを特徴とする請求項1 1に記載のスポーツブーツ。

【請求項 1 5】

足首の外側に突出している旋回軸(300)を備え、この旋回軸が前記旋回軸により外部シェルを締付けできるように配置されていることを特徴とする請求項1に記載のスポーツブーツのためのインナーブーツ(3)。

【請求項 1 6】

リブを付された靴底(37)を備えていることを特徴とする請求項1 5に記載のインナーブーツ。 10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、スポーツブーツの分野、特にスキー、スケートなどのための堅いシェルを備えたスポーツブーツの分野に関する。本発明は、特に堅い外部シェルとツアータイプの着脱可能なインナーブーツを備えたスポーツブーツに関する。

【背景技術】

【0002】

インナーブーツと外部シェルを備えたスキーブーツは、従来技術の状態が公知である。 20
インナーブーツはより快適に歩行するために外部シェルから取出すか、あるいはスキーをするためにこの外部シェル内に挿入することができる。このようなブーツの実例は特許文献1に記載されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】国際特許出願公開第2009/097550号明細書

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

外部シェルを備えたスキーブーツが有する課題の一つは、インナーブーツと外部シェルの間の力の伝達である。事実、インナーブーツは一般的に外部シェルに締付けられず、外部シェルの中でスライドするかあるいは動く恐れがあり、それによって力の効率的な伝達が邪魔され、スキースタイルを譲歩します。 30

【0005】

本発明の一つの課題は、改善された外部シェルを備えた新しいスキーブーツを提案することである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明によれば、これらの課題は、

インナーブーツ(3)と、

外部シェル(1)であって、この外部シェルの寸法により、前記インナーブーツ(3)を外部シェル内に挿入できるかあるいは外部シェルから取出すことができる外部シェルを備えており、

前記外部シェルが前記インナーブーツを強化し、かつ前記外部シェルにより、インナーブーツをスポーツ用品の部品に取付けることができ、

前記外部シェルが靴底(10)と上部を備えており、

前記インナーブーツが足首に近い外側に突出している旋回軸を備えており、

前記外部シェルが旋回軸を収容するためのハウジングを備えているスポーツブーツを用いて明らかに達せられる。 50

【0007】

この解決手段により、特にスキー回転時の力の伝達のための重要な点においてインナーブーツと外部シェルを一体化することが可能になる。

【0008】

外部シェルは第一の連結部を中心にして靴底に対して旋回可能である上部の前方部分、および／または第二の連結部を中心にして前記靴底に対して旋回可能である上部の後方部分を備えていてもよい。上部の前記後方部分を旋回させることにより、インナーブーツを外部シェル内に挿入でき、かつ外部シェルから取出すことができる。締め金は、閉じられかつ一方を他方に対してピンと張られた上部の前方部分と上部の後方部分を保持するため10に設けられている。この構造によりインナーブーツを容易に取出し、もしくは挿入することができ、かつこのインナーブーツを足首に効率的に保持することができる。

【0009】

上部の前記前方部分および／または上部の前記後方部分を旋回させることにより、前記ハウジングを開くかあるいは閉じることができる。ハウジングの周囲の一部分は、上部の前方部分上で切れ込みにより形成することができ、ハウジングの周囲の他の部分は、上部の後方部分上で切れ込みにより形成することができる。インナーブーツ上の突出している旋回軸は、切れ込みを収容するための環状の溝を備えている。この構造により、旋回軸とハウジングの間の堅い連結と、上部の前方部分あるいは後方部分を単純に開くことによるこれらの構成部材の容易な接続が可能になる。

【0010】

インナーブーツは、外部シェルの靴底に対して関節式につながれ、かつ後方上部に締結されアキレス腱の周囲の補強材を含んでもよい。

【0011】

旋回軸とハウジングの存在の独立した特徴によれば、外部シェルの靴底は、この外部シェルの内側の水を排出するための複数の孔を備えていてもよい。外部シェルはインナーブーツを見ることができ、かつ水を排出できるように大部分が穿孔されている。

【0012】

靴底の内側は、レリーフ模様構造、例えばリブと溝を備えていてもよく、外部シェル内でインナーブーツを横方向に、かつ必要とされる高に位置決めするために、このレリーフ模様構造はインナーブーツの靴底の下に対応する模様構造と協働している。従ってこの構造は、インナーブーツと外部シェルの間に、（少なくとも足に対して垂直な軸線に沿って）

堅い締結点を与える。

【0013】

本発明はさらに記載されたような外部シェルと記載されたようなインナーブーツにも関する。

【0014】

本発明の実施形態の実例を、添付した図により説明した詳細な説明において示してある。

【図面の簡単な説明】

【0015】

【図1】インナーブーツと閉じた外部シェルを備えた完全なスキーブーツを示す図である。

【図2】閉じた位置における外部シェルを示した図である。

【図3】上部の後方部分が空いた状態にある外部シェルを示した図である。

【図4】上部の後方部分と前方部分が共に空いた状態にある外部シェルを示した図である。

【図5】これまでの図の外部シェルと協働することができるインナーブーツを示した図である。

【図6】外部シェルにインナーブーツを締結することの詳細を示した図である。

10

20

30

40

50

【図7】図6を側面から見た図である。

【図8】外部シェルの靴底の下方から見た図である。

【図9】外部シェルの靴底の上方から見た図である。

【発明を実施するための形態】

【実施例】

【0016】

図示したスポーツブーツはスキーブーツである。本発明は、別のタイプのブーツ、例えばスケートブーツ、スノーボードブーツ等にも適用できる。

【0017】

図1に示したスポーツブーツは、図5でさらに詳細に示したインナーブーツ3と、図2と4に示した外部シェル1を備えている。インナーブーツ3は足を暖かく保ち、かつ街中で、スキーレストランで、あるいは雪の中で快適に歩くことができるよう設計されている。外部シェル1はこのインナーブーツを強固のし、かつインナーブーツをスキーのビンディング内へ、あるいは別のスポーツ器具の部品内へ案内することができるよう設計されている。足と足首は、例えば紐を備えたインナーブーツにより保持され、さらに外部シェルが閉じられると外部シェルによる大きな圧力で保持される。

【0018】

インナーブーツ3は、保温、防水および快適さを確保する、異なる軟らかい詰め物材料35を備えている。しかし、インナーブーツの靴底と基底部および/または上部の上側の強化リングは剛性のある合成材料でできてもよい。しかしこのインナーブーツは、外部シェル1によって完全には保護されておらず、従って防水材料で作らねばならない。例えば合成材料あるいは天然材料の軟らかい詰め物と一緒にインナーブーツは皮、ゴアテックス、ナイロン等で作ることができる。

【0019】

外部シェル1それ自体は剛性の有る合成材料でできている。外部シェルは大部分穿孔されており、外部シェルを軽量化し、かつインナーブーツを見る能够のようにしていく。

【0020】

外部シェルの寸法により、インナーブーツは外部シェル内に挿入するか、あるいはインナーブーツから取出すことができる。図2からわかるように、外部シェルは、靴底10と、第一の連結部110の周囲で前記靴底10に対して旋回可能な上部の前側部分11と、第二の連結部120の周囲で前記靴底10に対して旋回可能な上部の後方部分12を備えている。図示していない異なる実施例において、上部の二つの部品のただ一つだけを連結することが可能である。図3と4に見られるように、上部の前側部分および/または後方部分を各々旋回させることにより取出される外部シェル内にインナーブーツを挿入することができる。しかしながら、前側部分の旋回により取出しは容易になり、さらに前側部分がスキー上に残っていると、外骨格の高さと空間に必要とされる条件を抑えることができる。参照符号18は、外部シェルの基底部に接続した軸180を中心に旋回している、アキレス腱の周囲の補強材を示しており、この補強材は、閉鎖した位置において、上部の後方部分の開口部に挿入されるほど(tendon)182により上部の後方部分12の内側に対して固定される。

【0021】

外部シェル1が閉じられ、靴締め金で締められると、この実施例ではケーブルに張力を与えることができる二つの締め金112, 113が、上部の後方部分12に対して状部の前方部分11をぴったりと保持している。

【0022】

図5に示したインナーブーツは、基底部31、上部30および靴底37を備えている。参照符号35は詰め物材料を示す。インナーブーツは紐留め34を備えた紐36により締

10

20

30

40

50

められ、この紐留めにより、紐に張力を与え、かつ紐留め 3 4 を舌状体 3 3 上の固定点に引っ掛けることができる。

【 0 0 2 3 】

さらにインナーブーツ 3 は、足首の外側に旋回軸 3 0 0 を備え、この旋回軸によりインナーブーツを外部シェルに固定することができる。似た旋回軸を足首の内側にも設けることができるが、使用時に歩行の邪魔であることがわかり、数多くのタイプのインナーブーツの場合、内側の旋回軸は付けないのが好ましい。

【 0 0 2 4 】

外部シェルはこの旋回軸を収容するために足首の内側にハウジング 1 4 を備えている。ハウジングは上部の前方部分 1 1 上の半円形の切れ込み 1 4 0 と、上部の後方部分 1 2 上の類似した切れ込み 1 4 1 により構成されており、これらの切れ込みは旋回軸 3 0 0 内の溝 3 0 1 内でスライドするようになる。従ってハウジング 1 4 は外部シェルの上部の前方部分 1 1 および / または外部シェルの上部の後方部分 1 2 を各々旋回することにより開閉することができる。従って旋回軸 3 0 0 はインナーブーツ 3 と外部シェル 1 の間に堅い締結点を構成しており、この締結点はブーツの二つの部品の間で効率的に力を伝えることができる。

【 0 0 2 5 】

異なる実施形態において、図示してはいないが、インナーブーツの基底部 3 1 は上部の限られた屈曲性 (l i m i t e d f l e x i o n) を許容できるように、二つの旋回軸を中心にしてこのインナーブーツの上部 3 に対して関節式に接続している

図 8 と 9 には、外部シェル 1 の靴底 1 0 の二つの図が示してある。図 8 を見てわかるように、靴底 1 0 は靴底の下に締められた取替え可能な消耗部品を構成する前方板 1 0 2 と後方板 1 0 3 を備えている。靴底 1 0 を通る複数の孔 1 0 0 により、外部シェルの内側に溜まる水と雪を取り除くことができる。

【 0 0 2 6 】

外部シェル 1 内でインナーブーツ 3 の正確な横方向位置決めとブーツのこれら二つの部品の間の力の伝達とを確実に行うために、靴底 1 0 の内側は、溝により隔てられ、かつインナーブーツの靴底 3 7 の下の溝とリブに対応するように協働している、ここではリブ 1 0 1 により構成されたレリーフ模様構造を備えている。さらにこの構造により、歩行のために使用された場合に、たとえ靴底 3 7 が摩耗しても、外部シェル 1 内におけるインナーブーツの一定の位置決めを確実に行うことができる。実際のところ、靴底 3 7 のリブが摩耗しても、インナーブーツの垂直位置が変わらないように、靴底 3 7 の真下の溝の底部は摩耗しにくい。

【 0 0 2 7 】

インナーブーツを見る能够の程度まで穿孔されている構造を外部シェルが備えているのが有利である。一実施形態において、外部シェルの靴底は、互いに溶接、接着あるいは機械式に組立てられた二つの部品から成り、長手方向の締結位置を変えることにより、1 個のモールドから異なる靴サイズの靴底を製造することが可能である。

【 符号の説明 】

【 0 0 2 8 】

- | | |
|-------|--------------|
| 1 | 外部シェル |
| 1 0 | 靴底 |
| 1 0 0 | 靴底の孔 |
| 1 0 1 | 靴底の内側の長手方向リブ |
| 1 0 2 | つま先板 |
| 1 0 3 | 踵板 |
| 1 1 | 上部の前方部分 |
| 1 1 0 | 上部の前方部分の旋回点 |
| 1 1 2 | 締め金 |

10

20

30

40

50

1 1 3	締め金	
1 1 4	締付けケーブル	
1 1 5	締付けケーブル	
1 2	上部の後方部分	
1 2 0	上部の後方部分の旋回点	
1 4	旋回のためのハウジング	
1 4 0	旋回のためのハウジングの前方部	
1 4 1	旋回のためのハウジングの後方部	
1 6	靴底の前方部	10
1 7	靴底の後方部	
1 8	アキレス腱周囲の強化部	
1 8 0	アキレス腱周囲の強化部の軸	
1 8 1	アキレス腱周囲の強化部のロック	
3	インナーブーツ	
3 0	インナーブーツの上部	
3 0 0	インナーブーツの旋回軸	
3 0 1	溝	
3 1	インナーブーツの基底部	
3 3	舌状体	
3 4	紐留め	20
3 5	詰め物	
3 6	紐	
3 7	インナーブーツの靴底	

【図1】

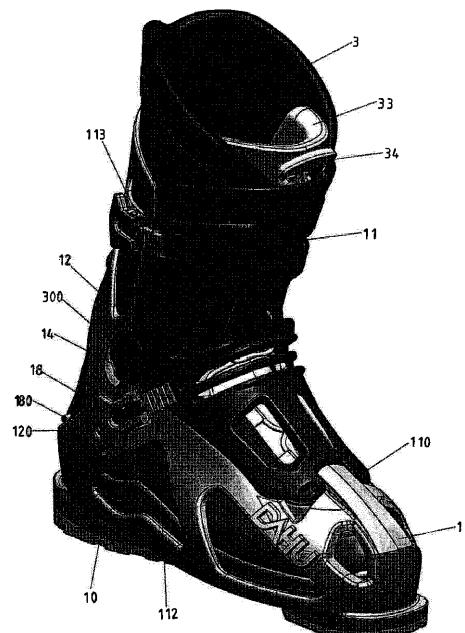


Fig. 1

【図2】

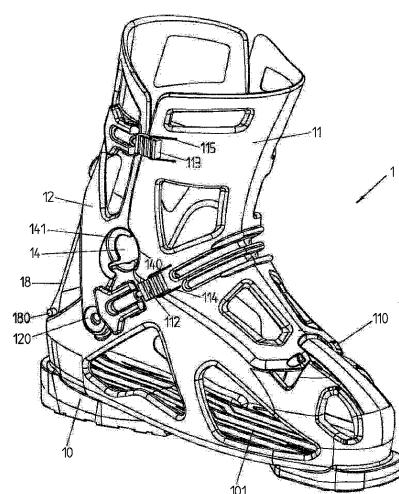


Fig. 2

【図3】

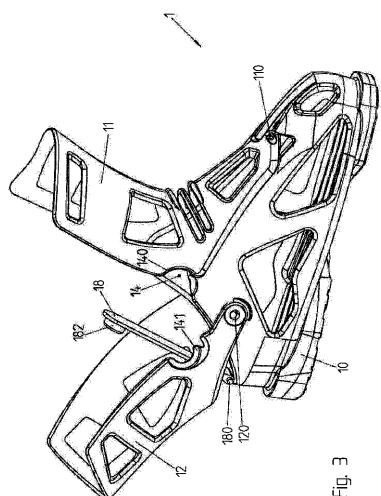


Fig. 3

【図4】

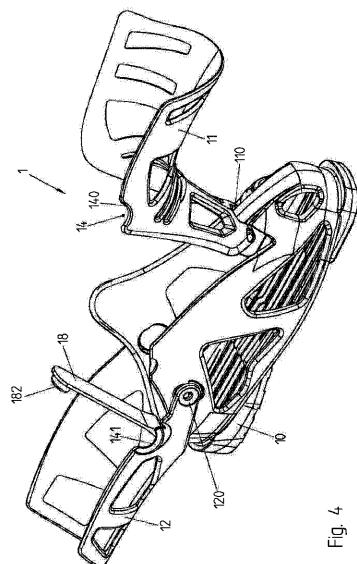


Fig. 4

【図5】

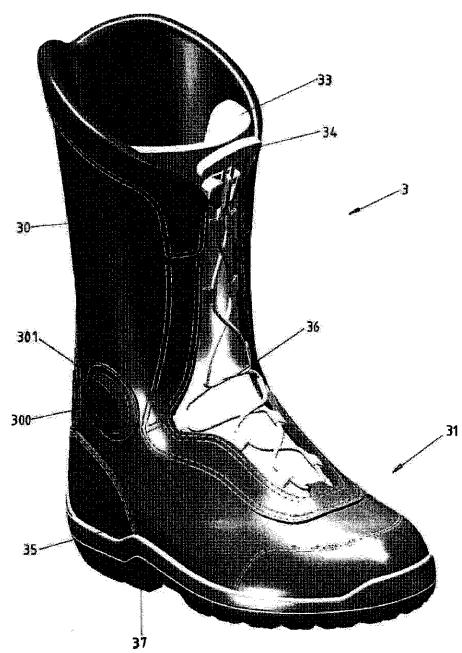


Fig. 5

【図6】

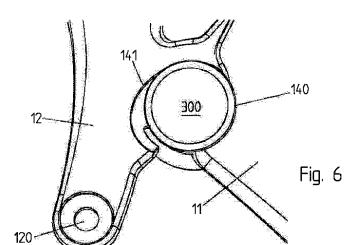


Fig. 6

【図7】

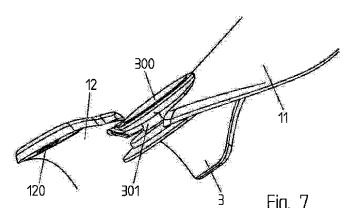
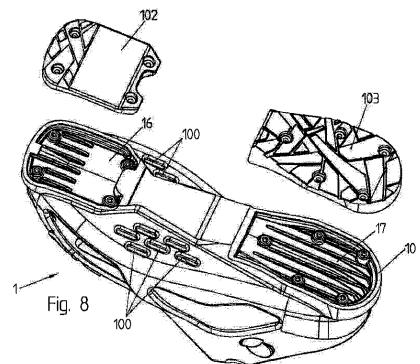
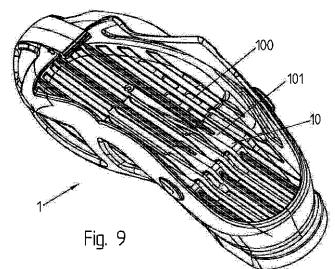


Fig. 7

【図8】



【図9】



フロントページの続き

(72)発明者 フライ・ニコラス
スイス国、1003 ローザンヌ、ボー・セジュール、24

審査官 山内 康明

(56)参考文献 特開平05-199902 (JP, A)
米国特許第05279053 (US, A)
米国特許第06098317 (US, A)
実開平05-039302 (JP, U)
実開昭58-118901 (JP, U)
特開平07-298902 (JP, A)
米国特許第06079129 (US, A)
特開2004-236971 (JP, A)
米国特許出願公開第2004/0172848 (US, A1)
特開平09-098802 (JP, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A43B 5/04